

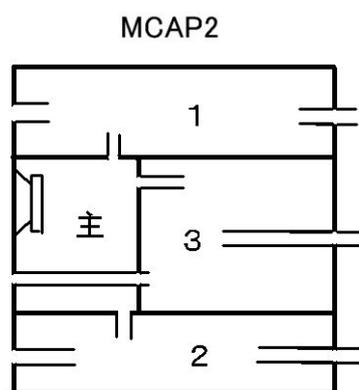
＊ ＊ ポート選択式 MCAP2 ＊ ＊

2011年 9月

大沢 博多

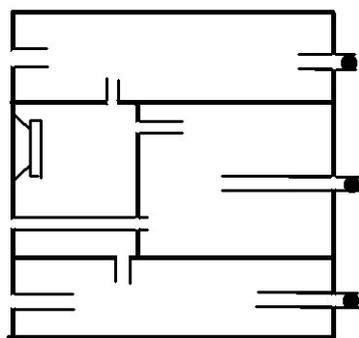
MCAP2 は自分としては 2 作目の MCAP-CR で、大気開放側のバスレフポートを前面と後面の両方に配し、どちらかを選択できるようにしたもので、完成後もポートパイプにいろいろつないで遊べるバカバカしい 1 台です。

構造は副空気室が 3 つの標準的な MCAP-CR のすべての小部屋の背面パネルに、前面と同じ共振設定の塩ビ管ポートをオフセットして取り付け、ジョイント接合で拡張性を持たせた物です。

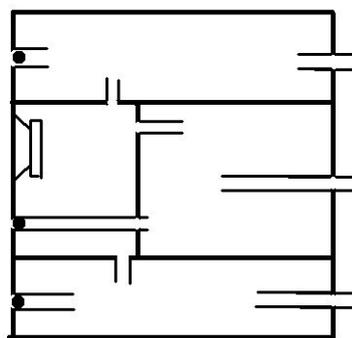


前後両方のポートが開放では当然意味が無く、どちらかを選んで使用しない方はゴム栓で閉じます。

標準的な前面ポート

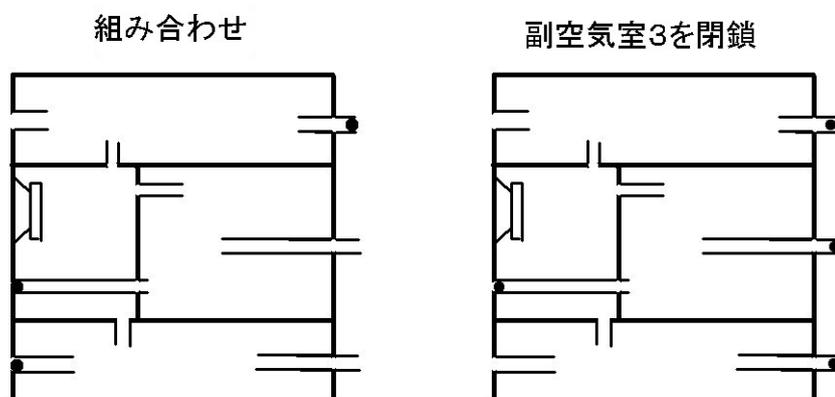


すべて背面出力

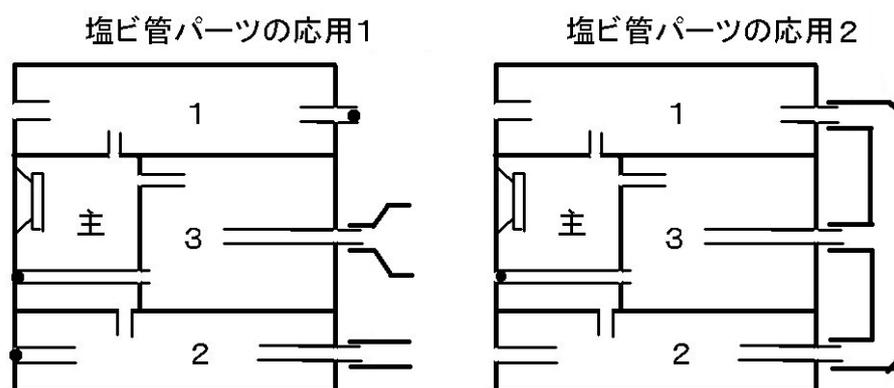


背面ポートを使用するときは壁、床の反射を利用するようセッティングします。低音域の増強と部屋全体を鳴らす方向で臨場感の改善を望めます。

3つの副空気室の大気開放ポートは独立して前後を選べるのでいろいろな組み合わせができます。



背面のポートは 25φ塩ビ管をオフセットして突き出しているため、拡張ができます。



ジョイントで延長すれば共振周波数を変えられます。異径のラップ等、塩ビ管パーツいろいろ利用できます

また、背面共振ポートを介して副空気室同士を連結できます

(理論的根拠はありません単につなげればつながるだけの話です)

基本的に MCAP-CR ですので、共鳴管とは違ってダンプ感の強い、エネルギー感のある低音です。

前面ポートを多用すると、比較的タイトなはっきりした感じですが、背面ポートから出し壁反射を利用すると、焦点は甘くなりますが、低音域の増強と、臨場感、広がり感が出ます。

他にもいろいろ応用が考えられると思います。大して変化の無いものやちっとも良くない場合もあると思います。いたずらを楽しむ精神で遊べます。



以上